

わたしの好きな よりの

No.164

今月号で皆さんにご紹介するのは、中間平緑地公園に咲く「冬桜」です。

冬桜は、名前のとおり冬に咲く桜のことをいい、「冬桜」という品種だけでなく「十月桜」等も含めて「冬桜」と呼ぶそうです。小樹で枝は細く、花は小さく可憐な薄いピンク色または白色です。また、最大の特徴としてあげられるのが、初冬（11月～12月）と春（4月）の2度花をつけるということです。

冬桜というと神川町の城峯公園や群馬県藤岡市（旧鬼石町）の桜山公園が有名ですが、寄居町でも中間平緑地公園に10本ほどが咲



< 冬 桜 >

いています。中間平緑地公園の冬桜はまだ枝が細く花も少数ですが、寒空に一生懸命咲いている姿は、「一見の価値あり」といった感じです。12月中旬くらいまでは花をつけているということですので、紅葉と桜の不思議な組み合わせを楽しんでみてはいかがでしょうか。



わが町の 達人 花道の達人 No.32



高橋房子さん（柴町）

お花に興味を持ったのは、中学生の時でした。山でツルツルした、それは見事な赤い木を見つけました。その傍に愛らしい白い花が咲いていたので、赤い小枝とお花を持ち帰り、小さな器に初めてお花を活着してみました。それがいけばなを修得したいと思ったきっかけになりました。

昭和41年、本格的に稽古を始め、

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

資格をいただいてから37年を迎えることができました。

寄居町花道協会、埼玉県いけばな連合会に入会させていただき、作品展示を行っています。

流派は真月池坊。明治41年に創流され、昨年で100周年を迎えました。来年5月には記念展覧が開催されます。

当流のモットーである「和」を中心に、古典から現代花にいたる、それぞれの花形を通し、季節感を大切に、お花の凛とした美しさや愛らしさ、枝の動きの美しさなど、自然との関わりに心を通わせ、日常生活の忙しい中にも、草花でさりげなく彩りを添えたり、心の安らぎや潤いを得ることができますようにとの思いで稽古をしています。時には思い通りに作品が表現できないこともあります。色々なお花に出会い、美しさを最大限に引き出すことができるようにチャレンジできる楽しさ、いけばなを通し多くの人々との交流が生まれるのも、いけばなの魅力の一つと思っています。

寄居町花道協会では1年を通じ、寄居駅跨線歩道橋改札前のボックスにお花を展示しています。駅を利用される方々に「きれいですね」「いつもありがとうございます」と声をかけていただきます。

埼玉県いけばな連合会が、「若い世代にいけばなをPRするような企画」で、埼玉県内の高校でいけばなを学ぶ生徒たちにアンケートをお願いしたところ、稽古を通し、「心の癒し」「自己表現できる場」「さまざまなお花と触れ合うことができる」との回答が多く寄せられました。生徒たちが目標を持ち、頑張っていることに感慨深いものがあり、大変うれしく思っています。伝統文化のいけばなを次世代の方々を受け継ぐべく、指導者のひとりとして、より一層の精進をと心に思っております。

